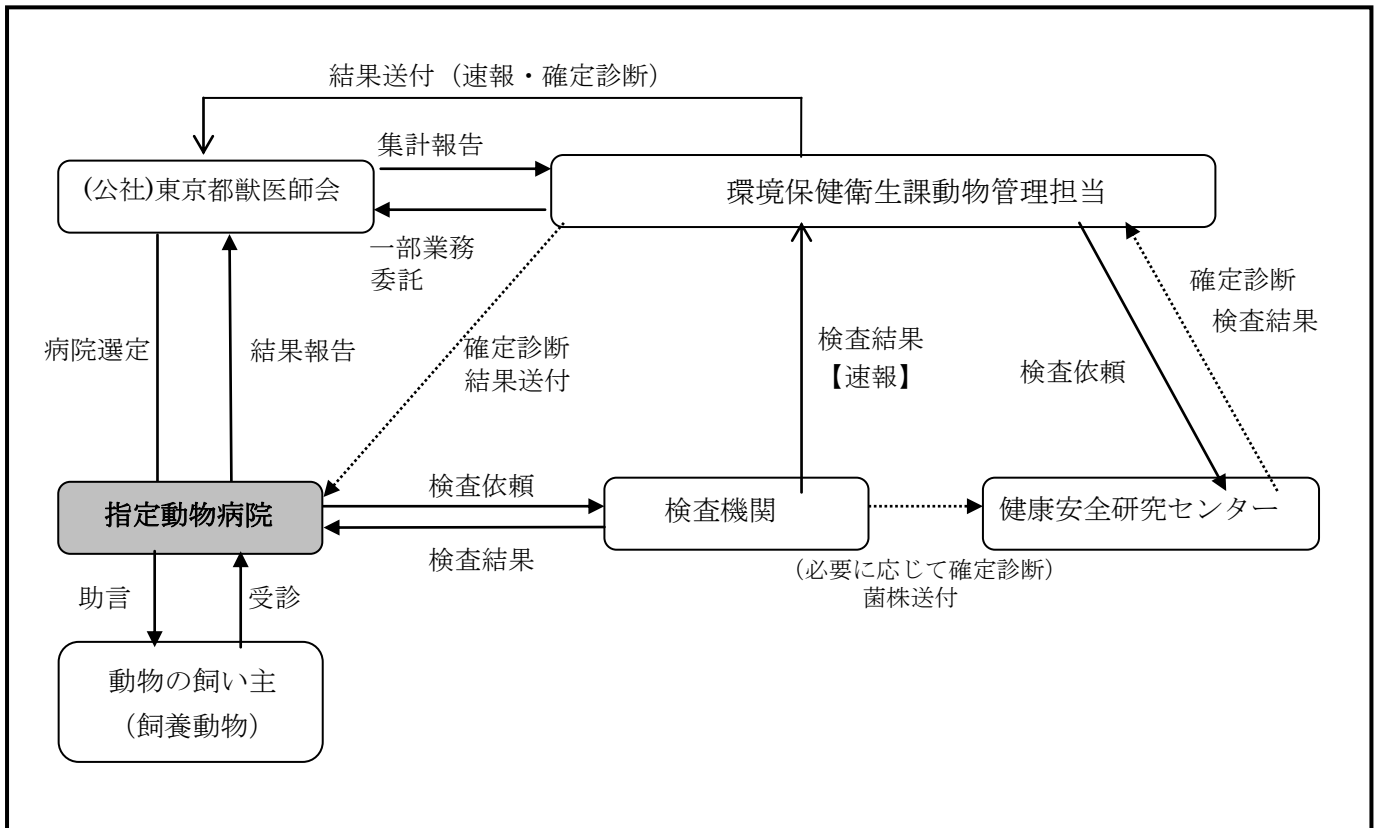


平成29年度動物病院における動物由来感染症モニタリング事業結果

1 目的

動物由来感染症の動物での発生状況を把握するため、動物病院における感染症の診断状況を集約し、動物由来感染症の人への感染を防止するための必要な措置を講じることを目的とした。

2 事業概要



1 モニタリング調査

【実施期間】 平成29年4月～平成30年3月（計12か月）

【調査対象動物】 指定動物病院を受診した犬・猫

【調査対象とする動物由来感染症】

犬	猫
皮膚糸状菌	皮膚糸状菌
疥癬	疥癬
犬糸状虫症	犬糸状虫症
回虫症	回虫症
ジアルジア症	ジアルジア症
瓜実条虫症	瓜実条虫症
犬ブルセラ症	トキソプラズマ症

【調査方法】 指定動物病院20病院における、月ごとの診察頭数及び調査項目に感染していると診断した頭数の報告を受ける。

2 サンプルング調査

【実施期間】 平成29年4月～平成30年3月（計12か月）

【調査対象及び検体数】 指定動物病院のうち病原体定点6病院において、飼い主から了承を得られた犬及び猫の糞便 計176検体

【調査対象とする病原体及び調査方法】

検査項目	調査方法
黄色ブドウ球菌 大腸菌、大腸菌O抗原 サルモネラ エルシニア・エンテロコリチカ 赤痢菌 腸炎ビブリオ バシラス・セレウス カンピロバクター	分離培養法

【調査方法】 病原体定点から検査機関に、便検査を依頼し、検査結果の報告を受ける。

3 調査結果

(1) モニタリング調査

平成29年4月から平成30年3月まで、指定動物病院20病院を受診した犬、猫123,042頭について調査を行った。内訳は次のとおりである。

- ・ 犬 78,882頭（区部：54,952頭、多摩部：23,930頭）
- ・ 猫 44,160頭（区部：33,554頭、多摩部：10,606頭）

ア 犬の診断状況

受診した犬78,882頭のうち、47頭(0.06%)についてモニタリング対象の感染症と診断された。各疾病の内訳は、表1のとおりである。

表1 犬の診断状況

調査期間	受診頭数	陽性頭数（括弧内は陽性率）						
		皮膚糸状菌症	疥癬	犬糸状虫症	回虫症	ジアルジア症	瓜実条虫症	犬ブルセラ症
4月	8,735	0	0	1 (0.01%)	0	0	0	0
5月	8,456	2 (0.02%)	0	0	0	0	2 (0.02%)	0
6月	7,543	2 (0.03%)	1 (0.01%)	0	1 (0.01%)	0	0	0

7月	7,312	2 (0.03%)	0	0	0	1 (0.01%)	1 (0.01%)	0
8月	6,752	7 (0.1%)	0	0	0	1 (0.01%)	1 (0.01%)	0
9月	6,464	4 (0.06%)	0	0	1 (0.02%)	0	0	0
10月	6,119	5 (0.08%)	1 (0.02%)	0	1 (0.02%)	0	0	0
11月	5,940	2 (0.03%)	2 (0.03%)	0	0	0	0	0
12月	6,026	0	1 (0.02%)	0	0	1 (0.02%)	0	0
1月	4,905	1 (0.02%)	0	0	0	2 (0.04%)	0	0
2月	4,874	1 (0.02%)	0	0	0	2 (0.04%)	0	0
3月	5,756	0	0	0	0	1 (0.02%)	0	0
区部計	54,952	22 (0.04%)	1 (0.002%)	1 (0.002%)	3 (0.005%)	4 (0.007%)	3 (0.005%)	0
多摩部系	23,930	4 (0.02%)	4 (0.02%)	0	0	4 (0.02%)	1 (0.004%)	0
総計	78,882	26 (0.03%)	5 (0.006%)	1 (0.001%)	3 (0.004%)	8 (0.01%)	4 (0.005%)	0
(参考) 28年度計	76,134	13 (0.02%)	17 (0.02%)		10 (0.01%)	8 (0.01%)	10 (0.01%)	0

イ 猫の診断状況

受診した猫 44,160頭のうち、119頭(0.27%)についてモニタリング対象の感染症と診断された。各疾病の内訳は、表2のとおりである。

表2 猫の診断状況

調査期間	受診頭数	陽性頭数 (括弧内は陽性率)						
		皮膚糸状菌症	疥癬	犬糸状虫症	回虫症	ジアルジア症	瓜実条虫症	トキソプラズマ症
4月	3,715	5 (0.13%)	1 (0.03%)	0	2 (0.05%)	0	0	0
5月	3,783	1 (0.03%)	0	1 (0.03%)	0	0	1 (0.03%)	0
6月	4,198	1 (0.02%)	0	0	2 (0.05%)	0	3 (0.07%)	0
7月	4,143	14 (0.33%)	0	0	4 (0.1%)	0	1 (0.02%)	0
8月	3,805	2 (0.05%)	0	0	9 (0.23%)	1 (0.03%)	4 (0.1%)	0

9月	3,662	6 (0.16%)	0	0	5 (0.14%)	1 (0.03%)	4 (0.11%)	0
10月	3,592	1 (0.03%)	0	0	2 (0.06%)	0	3 (0.08%)	0
11月	3,529	0	0	0	8 (0.23%)	1 (0.03%)	6 (0.17%)	0
12月	3,709	1 (0.03%)	0	0	5 (0.13%)	0	3 (0.08%)	0
1月	3,204	2 (0.06%)	0	0	1 (0.03%)	1 (0.03%)	2 (0.06%)	0
2月	3,088	4 (0.12%)	0	0	3 (0.10%)	0	0	0
3月	3,732	4 (0.11%)	1 (0.03%)	0	1 (0.03%)	1 (0.03%)	1 (0.03%)	0
区部計	33,554	30 (0.09%)	1 (0.003%)	1 (0.003%)	35 (0.10%)	3 (0.009%)	22 (0.07%)	0
多摩部計	10,606	11 (0.10%)	1 (0.009%)	0	7 (0.07%)	2 (0.02%)	6 (0.06%)	0
総計	44,160	41 (0.09%)	2 (0.005%)	1 (0.002%)	42 (0.10%)	5 (0.01%)	28 (0.06%)	0
(参考) 28年度計	45,794	17 (0.04%)	16 (0.03%)		76 (0.17%)	3 (0.006%)	22 (0.05%)	0

(2) サンプルング調査

平成30年4月から平成30年3月までの計176検体（犬：90検体、猫：86検体）について調査した。内訳は次のとおりである。

- ・ 犬 90頭（区部：62頭、多摩部：28頭）
- ・ 猫 86頭（区部：58頭、多摩部：28頭）

犬については、調査した90頭のうち、79頭(87.8%)についてサンプルング調査対象の菌が検出された。猫については、調査した86頭のうち、64頭(74.4%)についてサンプルング調査対象の菌が検出された。各菌の内訳は、表3のとおりである。

表3 犬・猫のサンプリング調査結果

対象動物	地域	検体数	陽性検体数（陽性率）									
			黄色ブドウ球菌	大腸菌	大腸菌O抗原	サルモネラ	エンテロコリチカ エルシニア・	赤痢菌	腸炎ビブリオ	バシラス・セレウス	カンピロバクター	
											<i>C. jejuni</i>	<i>C. coli</i>
犬	区部	62	0	56 (90.3%)	18 (29.0%)	0	0	0	0	0	0	0
	多摩部	28	0	23 (82.1%)	7 (25.0%)	0	0	0	0	0	0	0
	総計	90	0	79 (87.8%)	25 (27.8%)	0	0	0	0	0	0	0
猫	区部	58	0	42 (72.4%)	9 (15.5%)	0	0	0	0	0	0	0
	多摩部	28	0	22 (78.5%)	5 (17.9%)	0	0	0	0	0	0	0
	総計	86	0	64 (74.4%)	14 (16.3%)	0	0	0	0	0	0	0

検査機関で大腸菌O抗原陽性となった大腸菌菌株は、毒素産生性試験等により、腸管病原大腸菌の病原因子の有無を確認した。

表4 毒素産生性試験等結果

対象動物	菌株数	陽性菌株数			
		毒素原性大腸菌 (ETEC)	病原血清型大腸菌 (EPEC)	腸管出血性大腸菌 (EHEC)	腸管凝集性大腸菌 (EAggEC)
犬	25	0	0	0	0
猫	14	0	0	0	0